

氏名	宗 田 良
学 位 の 種 類	医 学 博 士
学 位 授 与 番 号	乙 第 1455 号
学 位 授 与 の 日 付	昭和59年 3 月31日
学 位 授 与 の 要 件	博士の学位論文提出者（学位規則第 5 条第 2 項該当）
学 位 論 文 題 目	気管支喘息患者好塩基球の IgE receptor の分布動態に関する 研究 —免疫走査電子顕微鏡法による観察—
論 文 審 査 委 員	教授 太田善介 教授 長島秀夫 教授 栗井通泰

学位論文内容の要旨

気管支喘息患者における好塩基球の IgE receptor の動態を知る目的で、免疫グロブリン結合 Latex 粒子 (Immunolatex) を作製し、これを標識マーカーとして、アトピー型、重症難治性喘息患者、並びに健康人の好塩基球表面における IgE receptor の分布程度の比較、分布状態の検討を走査電子顕微鏡下にて観察し以下の結論を得た。1) 標識マーカーとして作製した Immunolatex は好塩基球表面に特異的に結合し、走査電顕の為のマーカーとして有用であった。2) Immunolatex の好塩基球との結合程度は、洋梨型を呈する反応好塩基球に有意に高く、又、アトピー型喘息患者の好塩基球は重症難治性喘息患者、健康人に比し、Immunolatex の結合が有意に高率であった。3) Immunolatex の分布様式としては diffuse pattern 以外に Cap, patch formation の如き Ig E receptor の偏り球が観察され、後者の現象は洋梨型好塩基球に多く観察され、特にアトピー型喘息の好塩基球に高頻度に観察された。又、この様な cap formation は温度依存性の現象であることが示唆された。

論文審査の結果の要旨

本研究は気管支喘息患者における好塩基球の IgE receptor について走査電子顕微鏡的に研究したものであり、従来明らかでなかった receptor の分布の動態を解明した価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は医学博士の学位を得る資格があると認める。